

特別企画 : 神奈川県内の自動車部品メーカー業績動向調査

自動車部品メーカー、減産で売上 15%減 21年度以降も微増にとどまる

はじめに

自動車部品業界はコロナ禍での半導体不足を背景とした完成車減産の影響や、その一方でEV シフトへの動きが加速するなど大きな環境変化が続いている。技術革新が進むなか、こうした変化に乗り遅れれば打撃を受けることになりかねず、中小部品メーカーの動向が注目されている。

帝国データバンク横浜支店は、企業概要データベース「COSMOS2」(147万社収録)をもとに、2017年度～2021年度決算の業績が判明している神奈川県に本社を置く自動車部品メーカー、185社を抽出し、売上高や損益状況を分析した。また、2023年1月時点で2022年度の売上高が判明している43社についても同様に分析を行った。

[注]自動車部品メーカーは、「車体製造」「自動車内燃機関製造」「駆動・操縦・制動装置製造」「その他部品製造」で、2021年度決算の売上高が1億円以上の企業が対象

調査結果（要旨）

1. 調査対象の県内自動車部品メーカー185社の売上高合計をみると、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大による完成車メーカーの生産調整を背景に前年度比15.1%減（1兆2079億円）となった。翌21年度も半導体不足などの影響で前年度比2.2%増（1兆2347億円）にとどまっている
2. 2022年度の業績が判明している43社の売上高合計は555億9800万円（2023年1月時点）となり、21年度比（対象は上記43社）で2.9%の増加にとどまっている
3. 185社について、増減収の社数内訳を年別にみると、2021年度は増収企業が90社となり、前年度（29社）から大幅に増加、一方、減収企業は55社で前年度（140社）から大きく減少した。2022年度は43社中20社が増収となったが、依然として5割を下回る状況となっている
4. 2021年度の損益状況が判明している117社のうち91社（構成比77.8%）が黒字となった。黒字企業の割合は2020年度（構成比66.4%）から11.4pt増加している。また、2022年度の損益状況が判明している25社中、黒字企業は14社（構成比56.0%）、赤字企業は11社（同44.0%）となった。

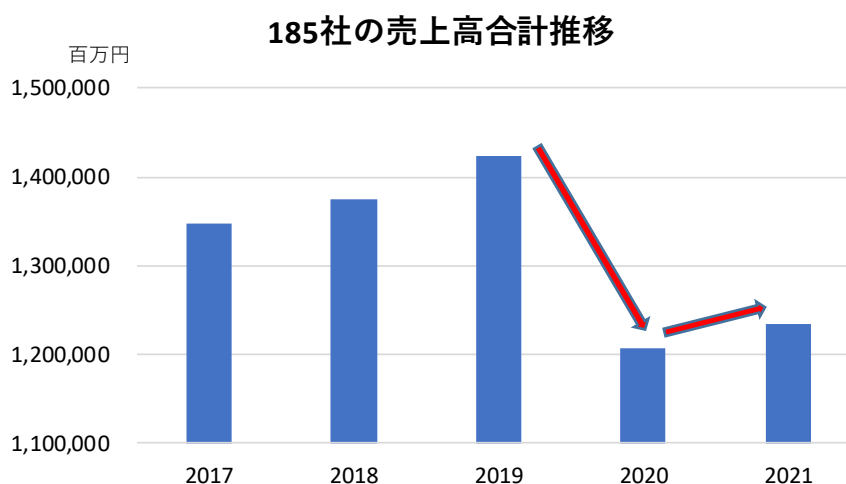
1. 売上高推移

2017年度～2021年度決算の年売上高が判明している185社の売上高合計推移をみると、2019年度までは安定した規模拡大を続けていたが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大による完成車メーカーの急激な生産調整を背景として、前年度比15.1%減の1兆2079億円に急減した。

その後、米中の経済回復などを背景に2021年度にかけて業績回復が期待されたが、同年度においても新型コロナウイルス感染拡大と半導体不足で完成車メーカーの減産が続き、2021年度は前年度比2.2%増の1兆2347億円にとどまった。

2022年度も半導体不足の影響を受ける状況が続き、2022年度の業績が判明している43社を対象に2022年度の売上高合計をみると555億9800万円（2023年1月時点）となり、21年度比（対象は上記43社）では2.9%の増加にとどまっている。

年度	売上高合計	増減率
2017	1,347,084	-
2018	1,374,224	2.0%
2019	1,423,139	3.6%
2020	1,207,903	▲15.1%
2021	1,234,762	2.2%



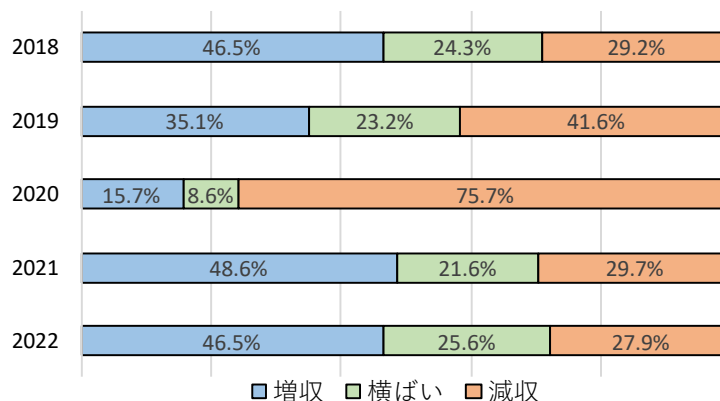
2. 増減収社数内訳

増減収社数の内訳をみると、売上高合計が急減した2020年度は185社中140社が減収（構成比75.7%）となり、増収は29社（同15.7%）にとどまった。翌2021年度は前年度の反動もあり、増収が90社（同48.6%）、横ばいが40社（21.6%）に増加した一方、減収は55社（同29.7%）に減少した。また、2022年度の業績が判明している43社中、増収は20社（同46.5%）となり、増収企業の割合は前年度からほぼ横ばいで推移している。

増減収社数（前年度比）

年度	増減社数内訳			社数合計
	増収	横ばい	減収	
2018	86	45	54	185
2019	65	43	77	185
2020	29	16	140	185
2021	90	40	55	185
2022	20	11	12	43

増減収企業の構成比



3. 損益状況

各年における損益状況（最終損益）をみると、黒字企業の割合は2018年度（構成比85.3%）以降、2020年度（66.4%）にかけて低下傾向を辿ることとなった。2021年度は黒字企業の割合が77.8%と前年度比11.4pt増加。売り上げの低下に歯止めがかかったことや経費削減などが黒字計上に繋がったものとみられる。

2022年度の損益状況が判明しているのは25社にとどまるが、黒字は14社（構成比56.0%）、赤字が11社（44.0%）となっており、損益面で厳しい状況が続いている状況がうかがわれる。

損益状況

年度	黒字		赤字		社数合計
	社数	構成比 (%)	社数	構成比 (%)	
2018	110	85.3%	19	14.7%	129
2019	101	81.5%	23	18.5%	124
2020	83	66.4%	42	33.6%	125
2021	91	77.8%	26	22.2%	117
2022	14	56.0%	11	44.0%	25

まとめ

新型コロナや半導体不足による完成車メーカーの生産調整、また資材価格高騰の影響などで自動車部品メーカーを取り巻く環境は厳しい状況が続いてきた。この間、県内の自動車部品メーカー185社の売上高合計の推移は2020年度が前年度比15.1%減と大きく落ち込み、翌2021年度も前年度比2.2%増、2022年度（業績が判明している43社が対象）も2021年度比で2.9%の増加にとどまっている。世界的なEVシフトや自動運転システムの開発など技術革新が急速に進行するなか、既存の自動車部品メーカーの動向が注目される。とりわけ資金面や体力面で対応できない中小メーカーの合従連衡は避けられないとみられ、サプライヤーの淘汰・再編が進む可能性があるだろう。

【 内容に関する問い合わせ先 】

(株) 帝国データバンク 横浜支店 情報部

篠塚 悟

TEL 045-641-0380 FAX 045-641-2555

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。